

平成28年度大川市総合教育会議 会議録

平成28年12月27日、大川市役所大会議室において、平成28年度大川市総合教育会議を開催しました。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりです。

1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時30分
閉会 16時20分

2. 出席委員の氏名

市長 倉重 良一
教育長 記伊 哲也
委員 貞苺 清
委員 武下 博子
委員 谷川 朋昭

3. 欠席委員

委員 一ノ瀬直子

4. 事務局等の出席者

学校教育課長	下川 慎司
学校教育課主幹	古賀美保理
生涯学習課長	石橋新一郎
学校教育課長補佐	本田 龍雄
生涯学習課長補佐	岡 辰磨
記録者・学校教育課総務係	永島 潤一

5. 傍聴者

5名

6. 付議案件

議事

- (1) 大川市教育大綱について
- (2) 大川市「魅力ある学校・地域」木の香プランについて

7. 議事

1. 開会 2. 市長あいさつ	
市長	本日は、年末の大変忙しい中に大川市総合教育会議にご出席賜り、誠にありがとうございます。ただ今から、平成28年度大川市総合教育会議を開会いたします。 ご案内のとおり、昨年4月1日から施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正する法律」より、教育委員会と首長との連携強化、それと地方に対する国の関与の見直しが図られて

	<p>おります。</p> <p>この中で、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」の設置、教育委員による新「教育長」へのチェック体制の強化と会議の透明化と、すべての地方公共団体に「総合教育会議」の設置が求められており、教育に関する「大綱」を首長が策定するということが、以上4つが、この法律で規定されております。本市におきましても所要の体制整備等々を行いまして、昨年度より総合教育会議を開催しているところでございます。</p> <p>私は、10月23日に市長に就任しましたので、総合教育会議につきましては、初めての会議ということになりますが、委員各位におかれましては昨年度より引き続きということで、大変ご尽力いただいているところでございます。</p> <p>さて、本日の議題につきましては、次第にありますように2件であります。</p> <p>1つ目でございますが、「大川市教育大綱」につきましては、法律の一部改正を踏まえ、昨年度策定されたものでございます。この度、市長が交代となりましたので、あらためて内容等の確認をさせていただくものでございます。</p> <p>2つ目でございますが、「大川市『魅力ある学校・地域』木の香プラン」につきましては、本年6月に教育委員会（定例会）において決定されたとのことでございますけれども、総合教育会議の本旨であるところの「首長と教育委員会が十分な意思疎通を図って、より一層の民意を反映した教育行政の推進」のため、委員の皆様より忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。</p>
<p>3. 議事 (1) 大川市教育大綱について</p>	
市長	<p>それでは、一つ目の大川市教育大綱につきまして、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>議題の1、「大川市教育大綱について」説明させていただきます。</p> <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第1条の三の規定によりまして、教育大綱については地方公共団体の長が定めとなっております。また、大綱を定め、これを変更しようとするときは、あらかじめ、総合教育会議において協議するとされているところであり、大川市の教育大綱については、昨年度3回の総合教育会議において協議が行われ、昨年11月24日に開催の第3回会議において可決をされたところであります。</p> <p>11月の策定時におきましては、前市長でございましたので、今年10月に新しく倉重市長が就任されましたので、本市の教育大綱を変更されるのか、あるいは今の大綱のままかということを決めていただく必要がございます。以上で、「大川市教育大綱について」の説明を終わります。</p>
市長	<p>教育大綱は市長が定めることとなっております、市長の交代に伴ってあらためて議題とさせていただいておりますけど、私としては、この大</p>

	<p>綱の内容に関して変更する意向はございませんが、若干、ヘッドラインに目標1・2・3・4というところでタイトルを追加し、この点で委員の皆様にご了解をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>それでは、本件につきまして採決は不要でございますので、次の議題に進めさせていただきます。</p>
<p>3. 議事 (2) 大川市「魅力ある学校・地域」木の香プランについて</p>	
市長	<p>次の議題の2番目でございます、木の香プランにつきまして、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>[大川市「魅力ある学校・地域」木の香プラン～第2次学校再編に向けて～]というプランについて、説明をさせていただきます。</p> <p>まず、本市におきましては、平成32年度を目標とする学校再編を予定いたしております。現在、いろいろな準備を進めているところですが、今から3、4年くらいの間に、再編とは別に、国が文科省を中心として、学習指導要領の改訂を行うなど、大きく学校教育が変わってきます。こうした状況に大川市の教育委員会としまして的確に対応し、魅力ある学校・地域づくりを図るため、今年の6月29日に開催いたしました大川市教育委員会において、この「木の香プラン」が承認・決定されたところであります。</p> <p>このプランは、予算に裏付けされた計画ではなく、あくまで市の教育委員会が目指す今後の方向性ということで、ご承知おきいただきたいと思っております。</p> <p>まずは、サブタイトルに～第2次学校再編に向けて～としておりますが、第2次ですから第1次というものがございます。第1次は今からおよそ55年以上前になります。昭和35年に2つの中学校が統合されております。木室中と田口中が統合され大川東中となり、川口中と大野島中が統合され大川南中となって以来の学校再編ということで、今回～第2次学校再編に向けて～という副題を付けさせていただいているところでございます。</p> <p>その下に、大川市教育大綱としておりまして、括弧書きで①から④までの大綱の大きな柱があります。キーワードといたしましては、まず「生きぬく力」を育む。それと2番目が「誇りと生きがい」を持った人づくり。3番目が生涯学習に関する内容ですが「学びと活動の循環」、4番目が「安心安全な教育環境づくり」となっています。</p> <p>そのようなことを進めていくために、「学校の組織運営改革」、「教員研修改革」、「地域からの学校改革」の3つのテーマを定めております。</p> <p>まず、「学校の組織運営改革」については、カリキュラムの最適化ということで、平成32年度に中学校が4校から2校になるということですが、小中一貫型教育、これまで10年間で保幼小中連携授業を過去10年間程取り組んできた経緯がございます。それで培いましたノウハウを活かして、小中一貫型教育をより深めていき、現在は中学校1校につき、小学校が2校という編成になっていますが、(中学校が)2校になる。その場合、今の計画では(中学校)1校につき、</p>

それぞれ小学校4校での保幼小中連携となってきますので、そのような編成での連携を深めていきたいと考えているところです。

②の「教科化への対応」については、道徳科と外国語科としておりますが、道徳科については小学校が正式には平成の30年度から教科化が始まり、中学校は1年後の平成31年度からです。「外国語」は英語が中心で、現在は小学校の5年・6年が「外国語活動」として授業を行っているのですが、正式な教科となるのが小学校5年・6年について平成32年度ということで、大川市としても国以上に充実をさせていきたいと考えております。

③の「社会に開かれた教育課程」については、「キャリア教育」、「ふるさと学習」としております。まずキャリア教育ですが、小さい頃から職業観・勤労観念というものを育てる必要があります。「ふるさと学習」については、大川市の歴史や伝統、物やことを学び、また「木育」を取り入れることで、郷土愛を育てるということも行っていかなければならないと考えているところです。

④の「多様なスタッフの配置」です。これについて、SCはスクールカウンセラー、SSWはスクールソーシャルワーカー、ALTは外国語科指導教員です。この方々については、すでに配置はしておりますが、さらに充実を図っていく必要があると考えています。

右側の「35人学級対応教員」の部分ですが、現在は基本40人を超えた場合に2つの学級に分けるということになっておりますが、県費で小学校の1年生については35人を超えた場合については、2クラスに分けることとしています。特例的に、小学校2年生等も県費で分けてはいます。しかし他市では、市費を入れて、常勤講師を雇いながら、3年生以上であっても2クラスに分けて、少人数学級での行き届いた教育を行っているところがありますので、大川市としても、そのような形で行っていく必要があると考えています。

次に「外国語科指導教員」は、英語の充実ということです。小学校では教科化がされていきますので、これについては、小学校の先生たちがこれから研修等も行っていきながら、英語科に対応していくことになり、一方では、ただでさえ、教材研究等の時間が取れないなどの課題もあります。そういったところで、市の費用で専門の外国語科指導教員を入れて、対応できる人員を入れて、空いた時間を先生方の教材研究の時間に充てていただくというようなことも行わなければならないと考えています。

次に「部活動支援教員」です。これについては、中学校の先生方で一番時間がかかる、負担になってくるのは部活動だと言われております。国としても、このような支援員を入れながら、負担軽減を行っていくようになってきています。すでに大川市でも1～2名は入れておりますが、今後も増員していく必要があると考えています。

次に、「特別支援教育支援者」です。発達障害、ADHD等、配慮を要する子どもたちが最近増えているということを言われております。そういった児童へ対応するために、既に配置をしていますが、それでも現場では足りないという声を聞きますので、増員していかなければ

ならないと考えているところです。

次に、「連携コーディネイト教員」は、保幼小中連携の授業をより深めるためのコーディネイターを各学校に配置することも、強化する上では必要ではないかと考えています。

続きまして、「教員研修改革」は、「資質能力の向上」であり、「人材の育成と人材確保」になります。まず、「市教育委員会：指導体制」ということで、「指導主事等割愛配置」があります。大川市の場合は、退職された先生方の中から、嘱託職員として任用しています。これに対して、「割愛」と言いますのは、現役の教頭や主幹教諭等が、形の上では一旦就職をして、市職員として指導主事になるというもので、南筑後教育事務所管内では、既に大川市を除く5つの市では、全て割愛の指導主事が入っております。大川市だけが入っていないという状況ですので、指導主事等割愛を入れる必要があると考えています。ただ、費用等の問題もございますので、来年すぐにというわけにはいきませんが、将来的に割愛を配置しながら、市の体制強化を図っていきたいと考えています。

続きまして、「市教育研究所：研究・講座」のところであり、各段階の教職員の研修です。それぞれ段階的に、「講師段階」、「若年段階」、「中堅段階」、「熟年段階」ということで、「若年」は10年未満、「中堅」が10年から20年、「熟年」が20年以上ということで、それぞれの段階に応じた研修を市の教育研究所を中心に行い、資質の向上に努め、今後さらに充実していかなければならないと考えています。

次に、「保幼・小・中連携事業・研究指定委嘱」についてです。現在は4つの中学校校区で行ってきました。今年度も、南中校区と三又中校区が行っています。このようなことを通しまして、小学校と中学校、小学校同士の授業交流等々により授業の改善等を行いながら、また小中学校の人事交流を少しずつ行いながら、教育の資質向上・能力向上を考えています。

次に、「大川市木工産業史」は、現在、編纂中でございます。中堅の教職員が、近現代史編集に参加しています。このようなことに参加することで、ふるさとをよく知り、今後のふるさと学習に活かしていただきたいと考えています。

最後の3番目の右側の柱になります、「地域からの学校改革」、「マネージメント力の強化」のところでございます。「コミュニティスクール（学校運営協議会）」についてですが、現在子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は、深刻な状況だと言われております。特に地域との繋がりなど、支え合いが希薄化しており、児童虐待の増加や貧困問題の深刻化、複雑化した学校の課題等が増えているということで、教職員の負担が増加し、学校や子どもが抱える課題解決や未来の子どもたちの豊かな成長のためには、社会総がかりでの教育が不可欠であると言われております。その上で、これからの公立学校は、開かれた学校からさらに一歩踏み出して、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのか、目標やビジョンを地域住民とも共有して、地域と一体になって子どもたちを育て、地域と共にある学校へと

	<p>転換していくことを目指して取り組んでいく必要があると思います。</p> <p>それには、コミュニティースクールが有効なツール、道具・手法だと言われています。そういったことから、現在大川市においても、三又中校区が今年度と来年度の2年間、市の研究指定を受けて、コミュニティースクールを設定しているところであり、これについては、文科省の諮問機関であります中央教育審議会においては、全公立学校に広めていきたいと考えがありますので、今後このようなことへの対応もしなければなりません。「コミュニティースクール」とは、学校運営協議会というものを、地域住民の代表の方で協議会を設置していただいて、その中で、学校長が示す学校運営の基本方針について、承認していただく。承認するためには、様々に意見等を提示しながら、承認をされれば、校長の基本方針・運営などの学校面に協力していただく、支援していただくということです。</p> <p>また、「地域のニーズに応える学校」ということで、そういった運営協議会の中で、学校運営や部活動に関する意見を述べていただくことで、地域のニーズが、どういったものか把握し、それに応えていく学校ということを進めていく。そういったことを支えるためにも、「地域ボランティアクラブ」というものが、先進地域では組織をされて、地域ぐるみで学校の支援をしているということも見られますし、そういったことの意識づくり（を重視し）、地域の協力を得ながら行っていくことで、地域からの学校改革というものを進めていく必要があるということです。</p> <p>木の香プランの説明については以上です。</p>
市長	<p>それでは、木の香プランにつきまして委員お一人ずつ、ご意見をいただければと思います。</p> <p>A委員からお願いします。</p>
A委員	<p>木の香プランについては、自分たちが承認した訳ですけども、非常にまとまりの良いですね、良い付議事案になったと改めて感じております。</p> <p>この木の香プランの実施について、期待を込めて、またプラン実施から膨らむ理想のところを、私がお話をさせていただきます。</p> <p>私が子どもの頃、大川市の人口は5万人を超えて、家具生産高日本一と言われていました。木工所も1,500軒あって、市民の多くは木工関連に従事していました。その後、私自身も家業を継ぎ、木工関連産業に関わる仕事をして、30年近く経っております。また、大川活性化協議会等の青年団体活動をとおして、産業振興や青少年育成事業に関わってきた人間として意見を述べさせていただきます。</p> <p>現在の少子高齢化等を見れば、産業界に対する相当なテコ入れを行っても、昔のような大川にはどうせ戻らないのではないかというふうな感じがしております。そして、これ以上の若い世代の流出や人口の減少をくい止めるためには、教育しかない、私は感じております。それこそが4年前に教育委員会の教育委員を受けさせていただいた私</p>

	<p>の原点であります。</p> <p>この木の香プランには、魅力ある学校・地域という文言がございます。これから大川で子育てをされる倉重市長の感じられるところとか評価とか、そのような部分が非常に重要になってくると感じております。</p> <p>今の若い世代、これはもう安心安全信頼できる学校づくり。それからこれからの親世代ですけど、仕事は残念ながら大川以外のところに勤めているけれども、子育ては大川でしたい、大川の学校に通わせたい。そして今現在、市内の小中学校に通っている子どもたち、高校・大学を卒業して就職というときに、過去に学校・地域に教えてもらった大川の歴史・伝統文化を魅力的なものと捉え、その継承を目指す。そして今後は、10年後、20年後、親になったとき、自分たちが生まれ育ったふるさと大川で子育てをしたい、地域づくりに貢献したいという思いが芽生える大川市の特色ある教育に木の香プランが繋がっていければと思っていますところです。</p> <p>特に、学校再編、これは非常に大きなチャンスと捉えています。中学校が新設されますので従来の既成概念にとらわれることなく、先生方の意識改革も含めて、地域と学校と家庭の新しい関係づくりができると思います。その上で、学力向上はもとより、保護者も含めた規範意識、学校教育や家庭教育への関心を高め、学校と教育委員会が足並み揃えていく必要があると思います。</p> <p>このような事が、子育て世代にとっての魅力ある学校教育、それから教育環境の充実に繋がって、この街で子育てをしたいという考えに繋がっていくと信じております。以上です。</p>
市長	ありがとうございます。B委員。
B委員	<p>今、世界もそうですけども、非常に今時代が動いているというかわわっている。そういう中で大川の学校の環境も同じように非常に動きがあるのではないかと思います。そこで総合教育会議において、大川の教育大綱を策定しました。そしてまた、その中でも教育大綱の概念をそのまま取り入れたこの木の香プラン、非常に良くできているのではないかと思います。今の学校の現状と課題、それから今後目指している方向というのが、この木の香プランの中に非常にきちんとまとめられていると思います。</p> <p>どの事項も大切なことですが、やはり地域から学校をどうやって支えていけるかという点においては、「コミュニティースクール」の中で、地域の方々の力を、学校の中に取り入れていく、一緒になって子どもたちの子育てを考えていくことが非常に大切でないかと思います。地域の方には、非常に専門的にも力のある方も沢山いらっしゃいます。こういった方々を、学校の中に取り入れながら学校教育を支えていければと思います。</p> <p>学校組織運営の改革の中にもいろいろ「35人学級対応」や特別支援教育支援者などを配置しながら、学校の内容を充実していくという</p>

	<p>こともあると思います。</p> <p>予算ということも沢山あるかと思いますがけれども、どれも大切なことですので、一つでも少しずつでも実現できていけばと思います。以上です。</p>
市長	<p>C委員。</p>
C委員	<p>学校再編について、そして学校再編をする大きな取り組みということで、自分なりに考えておりますのが、私自身が元々大川生まれの大川育ちということではなく、現在の柳川市、旧山門郡の三橋町の出身で、当時三橋町も人口は多くなかったですが、今こういう時代になって、大川も当然人口が同じように減っていますし、柳川市も減っております。</p> <p>17年前に大川に家族で移ってきまして、高校生の娘がいるのですが、中学校に入学するときに、「地元の中学校に行きなさい」と口を酸っぱくして言いました。それは、私の通った小学校三橋町の小学校は5つの小学校が1つの中学校になり、50人足らずの学年でしたけれども、中学校になると300人位になります。小さい小学校だけでも、中学校になったら人が増える、友達が沢山できる、沢山の先生方にもいろいろなことを教えていただくことができる、範囲も広がる、いろんな人達と地域の人たちとの交流ができるというので、娘にしきりにそのようなことを言っておりました。よくよく地元のことを見たときに、大川中学校は大川小学校と宮前小学校、2つですね、東中は田口小と木室小、南中は大野島小と川口小、三又中は三又小と道海島小と、さほど中学校になっても人数が多くなならない。それに輪をかけて子どもたちが少なくなっていく中で、今回学校再編の話になったときに、これはチャンスだと、通学距離とかいろいろな部分で問題がまだあるのかもしれないけれども、私がこの学校再編ということにきっかけとと思っているのは、沢山の人たちと関わる機会を作る、特に大人の社会に出てからは、嫌な人と会いたくなければ避けてしまうと、嫌なところに行きたくなければ逃げてしまうというようなことを自分で判断してしまうけれども、子どもたちはそこに沢山の人たちがいて、それが学校であれば尚更に沢山の人と出会って、沢山いろいろな人からいろいろな影響を受けたり、知らず知らずの内に影響を与えたりということは大きいのではないかなと。その中から自分にとって大切なものをきちんと自分のものにして身に付けていくというようなコミュニケーションの力を育みながら成長していく、学んでいくということで、その子たちが大きくなってこの大川で大人になり親となったときに、自分たちが育ったこの環境を子どもに自信を持って「残りなさいよ」と、ここで子育てをして仕事をしてというような長期的な目で見たとときに、「やっぱり地元だな」と言えるような、学校再編というものを通して、子どもたちが感じてくれたらいいなど。</p> <p>この木の香プランの中にもありますように、実際に小学校から中学校に先生の人事の異動がっております。それも子どもたちの授業を</p>

	<p>見ますと、小学校の子どもたちに分かるような授業を、中学校の生徒さんたちにしておられる先生方を見ると、やっぱり小学校を卒業して中学生になったから急に大人になるのではないのですね。その良い流れに乗ったままということも考えると、この木の香プランの教員研修改革の中にでもありますように、先生方の人事交流や小中連携、あるいは中学校が2つになって範囲が広がる。そうすると今まで小さい中学校区であったところが広がれば、それなりに当然自分たちの地元にはない仕事をしてある環境も当然あります。大川中校区に漁業をしてあるところはほとんど無いと思いますけど、南中校区と一緒にになると海苔づくりに従事している、海に関わる仕事をしている人たちもいれば、木工関係もそうになっていくのではないかと思います。</p> <p>いろんなことで不便を最初は強いることになる学校再編になるかもしれないけれども、そのように考えたときに、大きなチャンスとして沢山の方々にしっかりと理解をしていただいて、この「木の香プラン」というものを推進していくことで、子どもたちの地域に対する思いや沢山の人たちと出会うことの大切さというものを学んでいくことができるのではないかと考えております。</p> <p>倉重市長にも、中学校が4校から2校になった頃に中学校に通うお子さんがいらっしゃいますので、こんな学校ができれば良いなあ、学校にしたいなあという思いをお聞かせいただきたいと思います。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p>
教育長	<p>教育大綱については、目標①から④まで。①と③と④は、他の地方公共団体でも通用する内容です。目標②は大川市しか通用しない内容で、この点が特色となっています。</p> <p>先日、木工祭の実行委員会で、子どもたちのふるさと再発見というテーマでアンケートを実施していただきました。「大川で誇れるものは何ですか」という質問で、一番多かったものが小学生で21%の「大川木工」、中学生で25%の同じく「大川木工」でした。「風浪宮」でも「昇開橋」でもなく、「木工」だったのです。それだけ子どもたちは木工に関しては誇りに持っている。ふるさと納税であっても、やはり大川ならではの返礼品が全国から注文を受ける。「さすが大川だなあ」と感じています。子どもたちへふるさとに誇りを持ってもらうという点では、教育大綱の評価は高いと思います。</p> <p>木の香プランに関しては、子どもたちに木育を、誇りをというものと、もう一つは教職員に良い環境で仕事をしてほしいという思いがあって策定しました。例えば、中学校ではいずれも小規模化している。それに伴い、教職員が一人で何学年も場合によっては全学年のお世話をしなければならない。教材研究をしなければならない。一番良い例が、危険な理科の実験を学年ごとに毎時間準備しなければならない。このようなことも考えられます。そう言った意味で、できれば4学級くらい、つまり各学年に一人の教科の先生が配置できるような学校が</p>

一番理想だと思います。教職員にゆとりができれば、その子どもたちへの対応ができるということになるのではないかと思います。

小学校に関しては、毎年、先生の早期退職が多くなっています。今年もどうも増えそうです。昨年もそうです。理由は非常にハードですね。昔でいうとすれば、注意力散漫な子ども、机や椅子を離れて走り回る動き回る子ども、今で言うといわゆる配慮を要する子ども、学習障害または発達障害の子どもたちが非常に増えてきていて、先生の大きな負担になるのでしょうか。そうなってくると、60歳まで勤めることができない。さらに、保護者からのクレームも非常に多くなって、躰までしなければならぬということになっているので、なおさら大変で、定年を待たずに辞められる先生も多い。

そのような中、文科省は英語教科を入れました。英語の教科指導を学んでいない先生方に英語を教えろということですね。これに関して全然研修も入れない、そのような人を入れないという見切り発車を平成31年からするわけですね。実際には平成30年から実施可能ということでございますので、そうなってくると、ますます小学校の先生方が厳しい実態となってしまう。「先生、わからないので教えて」、「ちょっと待って。先生は英語の勉強をしないといけないので。」となりかねない。だからこそ、このようなプランを今から入れて、英語の免許を持つ教員を入れたい。そうすることによって、子どもたちの学力が高まるのではないかという思いがあります。以上です。

市長

私から少し教育について思っていることをお話しさせていただきたいと思います。私自身、大川の小学校を卒業して、中学からいわゆる進学校と言いますか、私立の全寮制の中高の私立の学校に行った経験をしております。今、小学生の親として思うところは、実はここに来る前は、東京で割と都会の真ん中で生活していたのですが、相当地域との連携が進んでいる学校で、「すごく良いな」、「今の小学校はこのようになっているんだ」と驚いたのが正直なところであります。そういう教育をしてくれる行政とか学校で、子どもを通わせている親としては、すごく安心できると思います。

その理由の一つが、町中の人、だいたい高齢の方が多くなるのですが、あるいは商店街の方だとか路面で仕事なり商売をされている方のほとんどが、皆で子どもたちを守っていることがひしひしと伝わってきました。入学式や卒業式に、議員の先生国会議員・都議会議員の先生が来られるのですが、名前さえ紹介せずに、紹介されるのは商店街の会長さんや老人会会長さんであるなど、とにかく徹底して、地域の方々に対する尊敬の念を持ちなさいという教育をしていました。公立の小学校でありますけれども。

やはり学校の建物の中だけで子どもを教育できなくて、一番は家庭での躰が最低限のベースとしてあって、次に地域でのみんなで行う教育と言うものがあって、一番上に学校教育があるものだと考えております。

学力についても、やはりそういうところで学んだ子どもが学力の面

でも良いのではないかと思います。これは感想ですけども、自分が進学校に行った経験から言うと、トップの子どもをいくら伸ばすよりも底上げをすることの方が、トップの子どもも学力や成績が伸びていく、私自身そのような環境で育ってきたので、全体を上げることによって学力が高い子どももより高まっていくのではないかと考えております。

そういう意味で、平成32年度に4つの中学校が2つの中学校になったあと、中学校は1年生から3年生までしかいないので、やはりできれば小学校低学年の子どもと接する時間を増やすとか、私の子供も一人っ子ですので、兄弟が昔みたいに沢山いないので、世代間の付き合いと言うことは非常に大事であるのではないかと。小さい子どもが目の前にいたら、いじめとかなかなかしづらいのではないだろうか、あるいは地域の高齢の方が学校の中にいつもいるような環境であれば、テストの点数よりももっと大事なことがそこにはあるのではないかと、接するだけで学べるような環境ができるのではないかと。小さい子どもとお年寄りまで含めて、いろいろな世代の人たちとの交流も時間も沢山とれるような学校になれば良いなということが、中学校に対する率直な思いであります。

そのほか、英語の教科など、今の子どもは忙しいなと思います。日本人が話す英語を習ってどうするのかという気はしますが、英語は英語圏の人が話す言葉であるし、本当の英語教育の目的は英語を話せること、技術を身に付けて英語で商売しやすくすることではなくて、日本語とは全く発想の違う物の考え方をする人が世界中には沢山いて、英語だけじゃなくてもフランス語やヒンズー語であるなど、いろいろな言葉は文化や歴史や物の発想の根幹ですから、そういうことを教えるために、英語ってあるのではないかとと思うのですが、受験勉強でしか英語を習ってこなかった人に英語を習う子どもはちょっと辛いなと思います。そう言った意味でも、ALTなど日本人であっても英語教育などでしっかりと技術を身に付けた方に教えていただきたいと思っております。

「木の香プラン」を見たときは、最初に思ったことはコミュニティースクールと言うものは今後、特に子どもが減っている中においては非常に重要だろうと思いましたが、中学生により幅の広い世代の人たちに付き合っていたいただきたいと思っておりますので、コミュニティースクールと言うものは進めていきたいですし、多様なスタッフも、かなり予算的には制約があり、一度に実現できるものではないですけれども、保育料を7割カットしたけれども、後に続く施策がなかったらまた人がいなくなるよと言われてますが、常々私も肝に命じております。

このプラン自体は素晴らしいものであって、これを実現できるようにやっていきたいと考えています。

教育長

コミュニティースクールについて、まだ具体的な効果が三又中校区から出てはいないのですが、どうなのでしょうかね。大川市として、ここで必要性があるのかないのか。私がこれを言ったのは、結構、学

	<p>校と親はうまくいっている、連携できている。それから学校と地域も意外と連携ができています。じゃあ、学校を外れた地域と家庭はどうだろうか。教育委員会からはあまり見えないです。そこがしっかりとしないと、地域と学校に言えないのではないかと、特にコミュニティースクールについては「地域からの学校改革」の領域に入れている訳ですが、大川市にとって必要性があるのかないのか。まだ、2年間の研究の段階ですので、これが入るとはまだ決まっておりません。何かご意見があれば委員さん方にお尋ねしたいと思います。</p>
C委員	<p>以前に比べるとどうしても核家族化が進んで、家に3世代4世代で(住んでいない)。我が家もそうなのですけれども、大川に来て、私たち夫婦に子どもがいて、たまたま移り住んできたところが、元々地域のつながりを大切にする地区なのです。移り住んできて2年目には、隣組長の当番が回ってくるとか。月に一回、隣組長会があります。毎月1回、第2土曜日の夜8時から。おじいちゃんおばあちゃんがいらっしやる場所は、おじいちゃんおばあちゃんが出席しますし、そうでないところは、土日子どもの用事とか家族でどこかに行っても、その時間には帰って来て隣組長会に出なければならぬとか。そう言うことや地域の行事のこととか、そうしたもので出る機会があったから、仕事も仕事ですので、なるべくならば地域の人の顔を早く知りたいということで、積極的に出ることができる状況であり、そのような条件であったのですけれども、そうではない普通の核家族の方たちからすると、地域に出て行く或いは地域で活躍されている方たちが、どうしても田舎の方に入れば入るほど、年齢層が高いような気がするのですね。そこに20代30代の子どもを持つ親が入って行けるのかという難しい部分があるのではないかと。それを、コミュニティースクールを通して、子どもを介して親と地域が結び付いていく。今の研究で実証されれば、大いに進めていく価値はあるのではないかと、思います。</p>
教育長	<p>5年前に筑後から大川に帰って来たときに、小学校の運動会に招待されました。運動会というのは、各町内区のテントが立ち並んでいます。ある校区に行ったら、半分あるのですが、半分は個人用のテントです。家族だけのテントです。校長はこれを許しているのか。各町内の間々に緑やブルーの個人用のテントが入っている。下が芝生ですので気分は良いでしょう。でも、それで良いのかなあと、これを地域の方は何も言わないのかというようなことを感じた。だからそういった意味で、地域と家庭がもう少し結び付き合うことも必要ではないかと思ったのが5年前です。どうでしょうね。</p>
B委員	<p>地域でいろいろ活動していると、コミセンの中で学校と地域、そこに子どもたちが入ってきて親との関わりがありますけど、親と地域の方は世代も違いますけど考え方も違うのですね。お年寄りの方がコミセンでいろいろ活動していると、子どもたちの考え方が、おかしいよねというようなことが結構あります。事の善悪とかもですけれども、</p>

	<p>人に対する対応の仕方ですとか、言葉にしても、違うよねというようなことを言われるお年寄りの方が結構いらっしやいます。</p> <p>だからそのところを、地域と親の世代の方と世代間でうまく連携ができれば。しているところも結構あるのですね、例えば、小学校の通学合宿で、親と地域の方々の関わりとか、子どもの関わりとかありますけれども、それを世代間の連携にもうまく繋げていけば良いのかなと思いますので、そういう場と言うものはとても大切だと思います。コミセン活動の中で、各世代全部が集まってするようなことを押し進めていければ、結構良いのかなと思います。</p>
市長	<p>運動会もそうですし、コミセン活動もそうですし。私が子どもの頃に、小学校で行われる校区民体育大会は本当に子どもから高齢の方まで同じ競技をするし、またその準備をする。何となく世代を超えた集まりだったのかなと思うのですけれども、そのような単発のことだけでは、おそらくC委員がお話されたように、地域の核の中に積極的に入って行かれる方もいれば、久留米とか福岡とかに勤務しているサラリーマンの人は、ほとんどここに（大川）にいないわけですから、その行事だけ参加する、「何かの種目だけ参加して」と言われて参加するということになると、これはまた地域との繋がりという面では薄いので、やはり子どもを介するということが、親と地域の要になるのかなと思います。コミュニティースクールは、その一助になるかどうかは、まさに三又中校区で行われているでしょうし、自営業の方ばかりではないので、そこはそのような場も大事かなと思います。</p>
A委員	<p>私は、前回は公民館の役員をさせていただいて、感じているところは、隣組にも入らない、子どもを子供会にも入れないという家庭がどんどん増えてきた。結果的には、子どもは入りたいたろうけれども、親は入らせない、入らない。そこでどうしようかということになりましたが、子どもが来たのを追い返す訳にもいかないもので、それはもう一緒に入れてあげてよということでやっていますけれども、親世代としましては、その子どもは孤立しているのではないのかなと思います。そういう家庭は、やはり学校に対する理不尽な要求をされている場合が多いと、私はそのような話を聞いております。</p> <p>これからコミュニティースクールの必要性という部分について言うと、そのような課題解消に向けた狙いの部分であるとか、そういったものまで、実際に推進をされている、中心となる校長先生であるとか、そういった方々に本当の意味での理解をしていただかないと、形だけになってしまうのではないかと心配をしています。本当の意味あるものにするためには、しっかりと腹を割って話していただくことが必要だと思います。</p>
教育長	<p>今年の夏に、教育委員会で感謝状を贈呈しておりました。そのときに、どちらかというとい多いのは、文化協会の方々へのお礼を込めての表彰になります。しかし、よく考えてみると、文化協会の方々、自</p>

市長	<p>分の趣味、したがってそれを続けることによって表彰を受けている。その中で思ったのが、毎朝の通学時間に見守りのために旗を持って立っている方を、感謝状の贈呈に校長会は推薦しないのか、地域が推薦しないのかと、ふと思いました。</p> <p>そのような中、11月のPTAの研修会の時に、田口小学校のPTAの発表がありました。文化センターの大ホールを貸し切って、子どもたちも親も参加して、見守り隊の方々に感謝状を贈呈していました。これは素晴らしいと思いました。学校と親と地域が一緒になっている姿を見ると、田口小学校の地域はコミュニティースクールができていないのではないかと感じます。</p> <p>そういった意味で、これはすぐにできるのではないかと思います。今の状況から。必要だからするのではなくて、結果的に必要になるのだらうと思います。ある程度トップダウンですべきだらうと思っています。地域の方々、そして保護者の方々に目覚めてもらいたい。もう学校のおんぶに抱っこではダメだらうと考えます。</p> <p>A委員が、「理不尽な要求をされる方は、地域活動をあまりされない」とお話されていましたが、見守り隊の人が雨の日に通学路に立っている姿を見た親としては、それでも、心を痛めないのかと、理解ができないところで、私も自分の子どもには、学校の勉強よりも、見守り隊の方々への挨拶等の方がずっとずっと大事だよと、普通の感覚として言っています。</p> <p>それで、先程教育長から、とりあえず、皆の前で表彰させてもらおうと話がありました。多少、そのような強引なやり方も、ひょっとすれば、必要ではないかと思います。地域の協力していただいている方を挙げることで、理不尽な要求をされる方が、そのようなことを言わなくなると思います。</p> <p>昨年は、総合教育会議が3回開催されて、教育大綱が作られて、今年度は市長交代を伴って、開催をさせていただいています。他にご意見等がなければ、このあたりで閉じさせていただきます。</p>
<h4>4. 閉会</h4>	
市長	<p>本日は大変お忙しい中にご参加いただき、ありがとうございます。よく国を滅ぼすのに、一発の弾丸もいらない、その国の教育を止めてしまえば、その国は滅びるのだということが言われています。本当に市民共通の願いは、子どもたちがしっかりと教育を受けて、生き生きと、伸び伸びと、成長してくれることが、我々ここに暮らすもの共通の願いであると思っています。</p> <p>行政を預かる者としては、厳しい財政を抱えていますので、皆さんが良くやったと言われるようには、時間がかかる場面も今後出てくると思います。委員の皆様におかれましては、この場に限らず、日頃から忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p> <p>今日は本当にありがとうございました。</p>